



2023~2027 小野町総合計画策定

○ 計画策定経過

庁内検討組織、公共的団体や有識者などで構成する「小野町振興計画審議会」を設置し、町民アンケートや町民、各種団体、学生らによるワークショップ、パブリックコメントでの意見や提案などを参考に審議を重ね、令和4年12月に基本構想が議会で承認され、将来像の実現に向け取り組む施策をまとめた基本計画と具体的に取り組む手段をまとめた実施計画を策定しました。

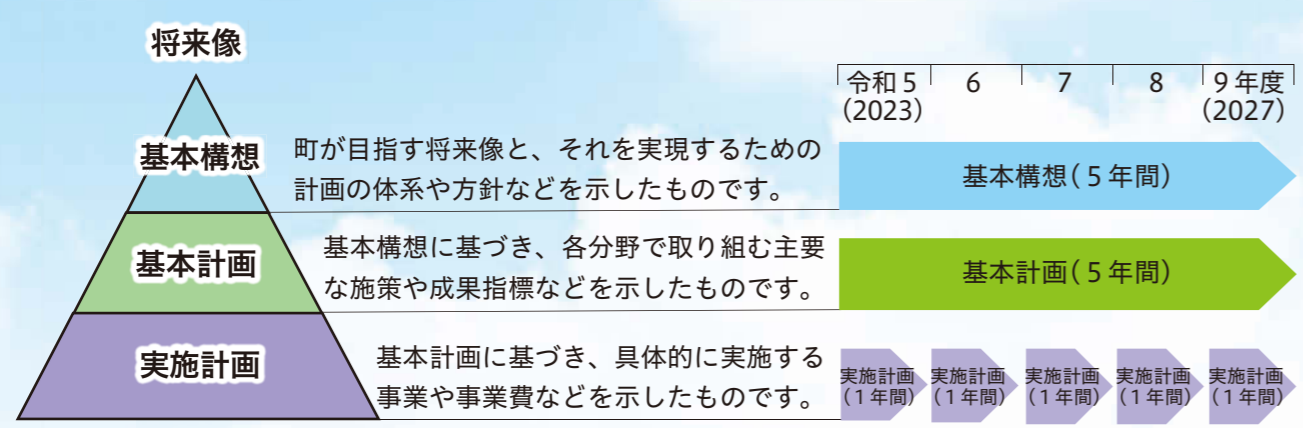
町では平成30年度から「未来へ おのまち総合計画」に基づき、各種施策に取り組んできました。この間、人口減少と少子高齢化の加速、自然災害の発生や新型コロナウイルス感染症による安全・安心に対する不安の高まり、情報通信技術の一層の進展など、社会環境は大きく変化しています。

このような背景を踏まえ、今後5年間のまちづくりの方向性とその実現に向けた取り組みを明らかにし、新たなまちづくりの指針となる「小野町総合計画(2023~2027)」を策定しました。

町の将来像「人が輝き みんなでつくる しあわせおのまち」の実現に向け町民の皆さんと協働で各種施策に取り組みます。

■ 計画の構成

総合計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3つで構成し、それぞれの内容は以下のとおりです。



令和5年度 当初予算 一般会計予算 58億5,600万円

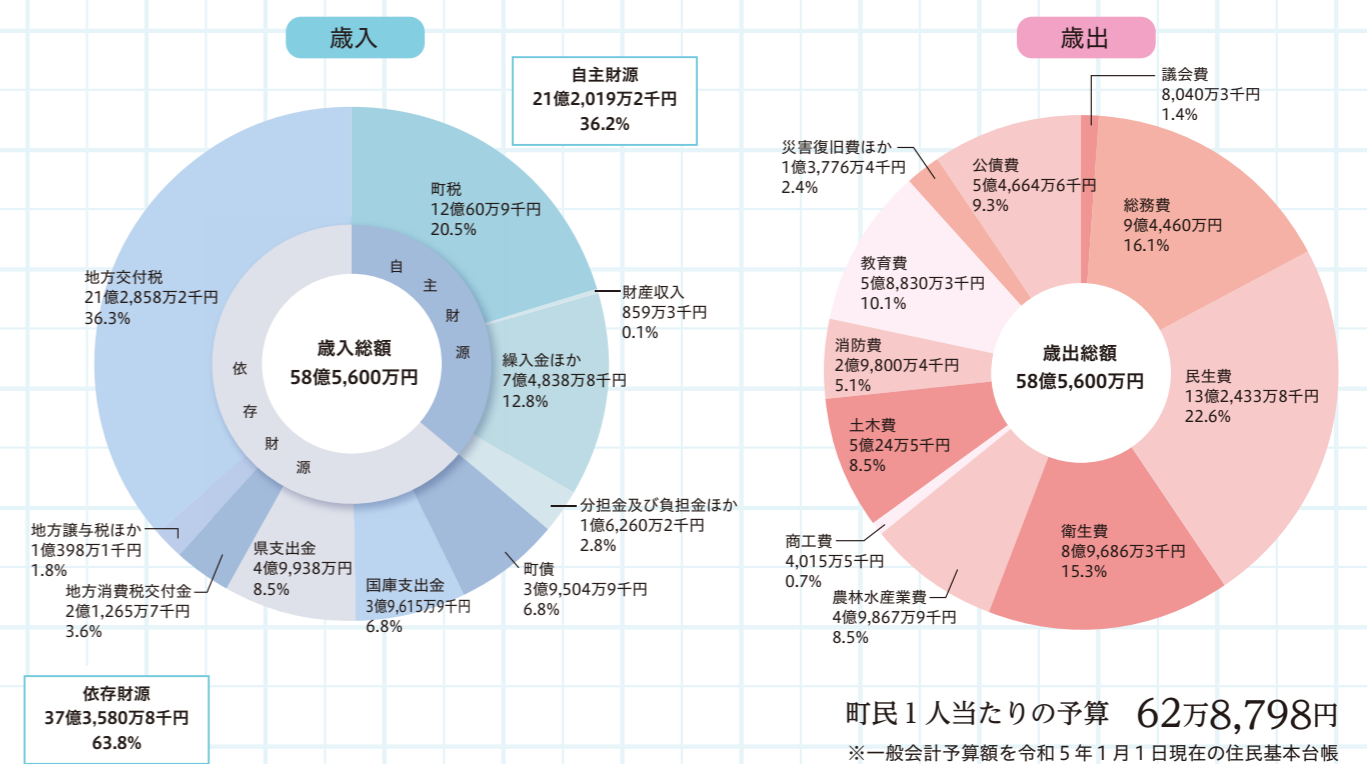
当初予算の概要

令和5年度一般会計予算の総額は58億5,600万円で、前年度対比3.59%、2億300万円の増額となりました。またすべての会計の予算総額は89億8,390万5千円で、2億6,118万5千円の増額となっています。

● 予算編成の基本的な考え方

令和5年度当初予算は、「総合計画」の将来像「人が輝き みんなでつくる しあわせおのまち」の実現に向けて、計画に掲げる6つの基本目標「人を育む子育て・教育・文化のまち」「元気でしあわせな健康・福祉のまち」「安全で快適な生活環境のまち」「豊かで活力に満ちた産業のまち」「選ばれるまち」「みんなで力を合わせてつくるまち」を着実に推進するための予算として編成しました。

※予算書などは、町公式ウェブサイトに掲載しています。



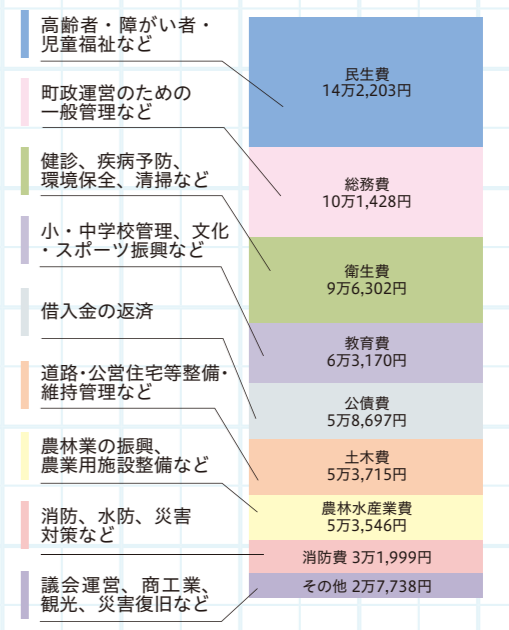
町民1人当たりの予算 62万8,798円

※一般会計予算額を令和5年1月1日現在の住民基本台帳人口9,313人で割って算出

● 令和5年度会計別予算額 (単位：千円)

会計	本年度予算額	前年度予算額	比較	増減率(%)
一般会計	5,856,000	5,653,000	203,000	3.59
特別会計	2,823,093	2,772,258	△50,835	△1.80
国民健康保険特別会計	1,193,528	1,145,981	47,547	4.15
後期高齢者医療特別会計	122,077	117,104	4,973	4.25
介護保険特別会計	1,421,602	1,430,843	△9,241	△0.65
浄化槽整備推進事業特別会計	83,753	76,197	7,556	9.92
文化・体育振興基金特別会計	2,133	2,133	0	0.00
公営企業会計※				
水道事業会計	304,812	297,462	7,350	2.41
収益的収入	166,572	166,029	543	0.33
収益的支出	160,981	161,383	△402	△0.25
資本的収入	57,001	58,030	△1,029	△1.77
資本的支出	143,831	136,079	7,752	5.70

※公営企業会計(水道事業会計)予算額は、収益的支出および資本的支出の合計額



■まちづくりの基本姿勢

町の抱える課題を解決し、まちづくりを進めるにあたり、すべての分野で基本とする姿勢を以下のとおり決めました。

【基本姿勢1】

「人」を大切に、「人」を育てる

【基本姿勢2】

「住みたくなるまち」をつくる

【基本姿勢3】

「みんな」で進める

■まちの将来像（5年間で目指すまちの姿）

まちづくりの基本姿勢に基づき、すべての分野において、本町の“強み”を活かしながら「人」を大切に、「輝く人」を育て、「住みたくなる」しあわせなまちづくりを「みんな」で進め、町民一人ひとりが、将来に夢と希望を持ち、生きがいに満ちた人生を送ることができる町を目指す将来像を決めました。

人が輝き みんなでつくる しあわせおのまち



■まちづくりの基本目標と目標達成に向け取り組む政策分野

将来像の実現に向け、計画の体系（6つの基本目標と31の政策分野）を決めました。

1 人を育て子育て・教育・文化のまち

- ①子育て支援 ②学校教育 ③生涯学習
- ④生涯スポーツ ⑤芸術文化・文化財
- ⑥国際交流

2 元気でしあわせな健康・福祉のまち

- ①保健・医療 ②高齢者支援
- ③障がい者支援 ④地域福祉

3 安全で快適な生活環境のまち

- ①消防・防災 ②交通安全・防犯・消費者対策
- ③環境・エネルギー ④ごみ・生活排水処理
- ⑤土地利用 ⑥上水道 ⑦道路・公共交通・住宅
- ⑧公園・緑地

4 豊かで活気に満ちた産業のまち

- ①農業 ②林業・森林保全 ③商業
- ④工業・企業誘致 ⑤観光
- ⑥雇用対策

5 選ばれるまち

- ①情報発信 ②交流 ③移住・定住

6 みんなで力を合わせてつくるまち

- ①人権尊重・男女共同参画
- ②コミュニティ
- ③町民参画・協働 ④行財政

■基本目標の達成に向け取り組む主要な政策

6つの基本目標を達成するため、31の政策分野、92の主要施策を着実に推進します。

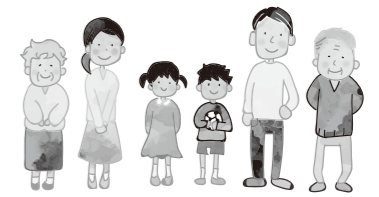
さらに主要施策を分野横断的に進めるため、主要施策の中から7つの重点プロジェクトを決めました。

主要施策

重点プロジェクト

■町の特性、町民ニーズ、社会環境の変化と町の抱える課題

町の特性、町民アンケートやまちづくりワークショップでの町民ニーズ、社会環境の変化などを総合的に勘案し、町発展に向けた主要な課題を以下のとおり整理しています。



町の特性

- ①恵まれた立地条件・交通条件
- ②県立自然公園に代表される豊かな自然
- ③おいしい農作物を生み出す農業
- ④充実した子育て環境と教育環境
- ⑤安心して暮らせる保健・医療・福祉環境



社会環境の変化

- ①少子高齢化・人口減少の急速な進行
- ②安全・安心への意識の高まり
- ③地方の産業・経済の低迷
- ④環境・エネルギーへの意識の高まり
- ⑤デジタル社会の到来
- ⑥支え合う社会づくりの重要性の高まり
- ⑦地方の自立と住民協働の時代の到来
- ⑧SDGsに基づく取り組みの進展

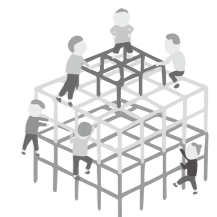
町民ニーズ

①町への愛着度と今後の定住意向

愛着を感じている 68.0%
住みたい 68.6%

②今後のまちづくりの特色

- 第1位 子育て・教育のまち
- 第2位 健康・福祉のまち
- 第3位 安全・安心のまち



③町の各環境に関する満足度と重要度

【満足度が高い項目】

- 第1位 消防・救急体制
- 第2位 防災体制
- 第3位 保健サービス提供体制

【満足度が低い項目】

- 第1位 雇用対策
- 第2位 観光振興に関する取り組み
- 第3位 工業振興に関する取り組み

【重要度が高い項目】

- 第1位 医療体制
- 第2位 子育て支援体制
- 第3位 ごみ処理体制

町発展に向けた主要課題

最重要課題

人口減少の抑制による活力ある小野町の維持



- ①子育て支援の充実と未来を担う人材の育成
- ②すべての町民がいきいきと暮らせるまちづくり
- ③だれもが住みたくなる安全で快適な生活環境の整備
- ④地域特性を活かした産業の振興と観光機能の強化
- ⑤町の情報発信と移住・定住を支援する取り組みの強化
- ⑥町民力の結集と行財政運営のさらなる効率化

令和5年度実施計画始動

小野町総合計画(2023~2027)の目標達成のため、取り組みを具体化した「令和5年度実施計画」を策定しました。実施計画は、主要施策を着実に進めるための「主要事業」と、主要事業の中でも特に重点的に取り組む「重点プロジェクト事業」で構成しています。

92の主要施策を推進するため、59の重点プロジェクト事業を含む118の主要事業に取り組みます。その内容は以下のとおりです。

一重点プロジェクト事業一

1 子育て応援・人づくりプロジェクト

主要施策	重点事業名(実施計画)	事業費(千円)
こども施策推進のための総合的な支援体制の強化	子育て世代包括支援センター事業	8,400
	伴走型相談支援、出産・子育て応援給付金事業	3,600
	乳児家庭全戸訪問・養育支援訪問事業	500
多様な子育て支援施策の推進	放課後児童クラブ等施設整備事業	18,200
	放課後子ども総合プラン事業	22,100
	★子育て世代包括支援センター事業	8,400
	笑顔とがんばり子育て応援事業	9,600
	★伴走型相談支援、出産・子育て応援給付金事業	3,600
	幼児教育・保育環境充実事業	200,700
「生きる力」を育む教育内容の充実	外国語理解推進事業	5,300
	小・中学校学力向上対策事業	15,700
	特別支援教育推進事業	24,600
	小・中学校就学支援事業	24,400
地域社会をつくる人づくり	小野高等学校連携推進事業	500
	生涯学習推進事業	4,500
読書活動の促進	図書館管理運営事業	2,600
	図書館資料整備事業	5,100
スポーツ活動の普及促進	スポーツ振興事業	2,900
国際交流関連事業の推進	小・中学生国際交流体験事業	4,300

2 健康長寿のまちづくりプロジェクト

主要施策	重点事業名(実施計画)	事業費(千円)
生活習慣病の予防とこころの健康支援	健康づくり推進事業	4,700
	検診事業	20,800
	健康増進事業	3,300
	歯科保健事業	400
	自殺対策緊急強化事業	600
介護予防の推進	高齢者地域福祉推進事業	4,300
	介護予防事業	1,200
みんなで支え合う地域福祉の充実	社会福祉事業	4,700
	地域共生推進事業	2,700

★…再掲事業

重点プロジェクト

本町の最重要課題である「人口減少の抑制による活力ある小野町の維持」を踏まえ、人口対策に特化した「小野町まち・ひと・しごと創生総合戦略」との整合を図りつつ、多様な取り組みの中から、選択と集中の視点に立ち、特に重点的に取り組む「重点プロジェクト」を定めまし



1 子育て応援・人づくりプロジェクト

子育て支援	こども施策推進のための総合的な支援体制の強化 多様な子育て支援施策の推進
学校教育	「生きる力」を育む教育内容の充実
生涯学習	地域社会をつくる人づくり 読書活動の促進
生涯スポーツ	スポーツ活動の普及促進
国際交流	国際交流関連事業の推進

2 健康長寿のまちづくりプロジェクト

保健・医療	生活習慣病の予防とこころの健康支援
高齢者支援	介護予防の推進
地域福祉	みんなで支え合う地域福祉の充実

3 災害に強く快適な住環境のまちづくりプロジェクト

消防・防災	消防団の充実
	総合的な防災・減災体制の確立 自主防災組織の充実促進
	河川改修など治水対策の推進
上水道	水道施設の整備
道路・公共交通・住宅	公共交通の充実

4 元気産業のまちづくりプロジェクト

農業	農業生産基盤の充実
	農業の6次産業化・発酵のまちづくり
商業	商工会及び商店街環境整備等の支援
工業・企業誘致	企業経営の安定化・活性化の支援
観光	観光資源の整備・活用

5 魅力発信と移住・定住支援プロジェクト

情報発信	広報活動の充実
	シティプロモーションの推進
移住・定住	移住・定住に関する支援体制の強化

6 みんながつながる協働のまちづくりプロジェクト

コミュニティ	コミュニティ活動の活性化支援 協働意識の醸成
町民参画協働	広聴活動の充実
	多様な分野における参画・協働の促進 町民団体・NPO等の活動支援

7 持続可能な未来への基盤づくりプロジェクト

子育て支援	多様な子育て支援施策の推進 「総合的な子どもの居場所づくり」
保健・医療	健康づくり拠点施設の整備
土地利用	小野インターチェンジ周辺整備の推進
	小野高校空き校舎等の利活用の推進
行財政	行政改革の推進
	効果的、効率的な財政運営の推進
	自治体DXの推進
	新庁舎の建設 公共施設の総合的な管理の推進



令和5年度主要事業

基本目標 1 人を育む 子育て・教育・文化のまち

主要事業名(実施計画)	事業費(千円)
結婚支援事業	3,400
教育委員会運営事業	3,800
スクールバス運行事業	112,600
給食センター管理運営事業	42,900
小・中学校ICT教育推進事業	48,900
体育施設管理運営事業	37,500
文化の館管理運営事業	16,800
芸術文化振興事業	200
芸術文化団体育成事業	400
企画展運営事業	900
文化財保護事業	1,100
海外研修助成事業	300
地域日本語教室スタートアップ事業	—
外国人社会教育指導員配置事業	5,600

基本目標 3 安全で快適な 生活環境のまち

主要事業名(実施計画)	事業費(千円)
郡山地方広域消防組合運営負担事業	171,000
交通安全対策事業	3,800
防犯対策事業	5,900
消費者問題対策事業	—
環境保全事業	1,500
最終処分場監視体制事業	50,600
再生可能エネルギー推進事業	900
ごみ減量化推進事業	100
ごみ処理事業	39,100
し尿等収集運搬事業	135,600
合併処理浄化槽整備推進事業	42,600
都市計画事業	9,900
住環境対策事業	5,000
道路維持管理事業	161,500
道路改良・舗装新設事業	82,000
街なか道路整備事業	51,500
橋りょう維持管理事業	13,000
公営住宅環境整備事業	17,400
木造住宅耐震診断・耐震改修事業	400
都市公園事業	28,200
公園・緑地管理事業	—

基本目標 2 元気でしあわせな 健康・福祉のまち

主要事業名(実施計画)	事業費(千円)
予防接種事業(法定)	19,400
予防接種事業(法定外)	2,700
病院運営事業	167,200
地域包括ケアシステム事業	23,100
障がい者福祉事業	8,400
地域生活支援事業	25,300
障がい者自立支援給付事業	198,700

基本目標 4 豊かで活力に満ちた 産業のまち

主要事業名(実施計画)	事業費(千円)
農業者育成推進事業	5,100
水田農業振興事業	9,700
畜産振興事業	4,500
町特産品販売力強化支援事業	1,500
ふくしま森林再生事業	96,600
林道整備事業	101,300
森林環境保全事業	9,500
中小企業経営及び起業支援事業	1,500
企業誘致推進事業	1,200
観光客誘客促進事業	10,800

基本目標 5 選ばれるまち

主要事業名(実施計画)	事業費(千円)
地域交流推進事業	600
大学・民間企業との連携推進事業	150
交流推進事業	700

基本目標 6 みんなで力を合わせて つくるまち

主要事業名(実施計画)	事業費(千円)
人権擁護事業	300
男女共同参画事業	200
ふるさと納税事業	21,900
広域連携推進事業	2,600

3 災害に強く快適な住環境のまちづくりプロジェクト

主要施策	重点事業名(実施計画)	事業費(千円)
消防団の充実	消防団管理運営事業	53,400
総合的な防災・減災体制の確立	災害対策事業	18,300
自主防災組織の充実促進	★災害対策事業	18,300
河川改修など治水対策の推進	河川維持管理事業	18,900
	右支夏井川河川改修事業	16,300
水道施設の整備	都市下水道事業	6,200
	水道管更新事業	71,900
公共交通の充実	地域交通対策事業	37,100
	交通弱者支援事業	15,000

4 元気産業のまちづくりプロジェクト

主要施策	重点事業名(実施計画)	事業費(千円)
農業生産基盤の充実	集積推進事業	78,400
	有害鳥獣対策事業	8,300
	多面的機能支払交付金事業	25,500
	農業用施設維持管理事業	18,300
	農道維持補修事業	12,000
農業の6次産業化・発酵のまちづくり	6次産業化及び発酵のまちづくり推進事業	7,300
商工会及び商店街環境整備等の支援	商工業活性化事業	19,500
企業経営の安定化・活性化の支援	企業支援連携推進事業	4,600
観光資源の整備・活用	県立自然公園事業	1,900

5 魅力発信と移住・定住支援プロジェクト

主要施策	重点事業名(実施計画)	事業費(千円)
広報活動の充実	広報広聴事業	9,200
シティプロモーションの推進	情報発信事業	4,500
移住・定住に関する支援体制の強化	移住・定住推進事業	18,200
	地域おこし協力隊事業	14,800

6 みんながつながる協働のまちづくりプロジェクト

主要施策	重点事業名(実施計画)	事業費(千円)
コミュニティ活動の活性化支援	持続可能な地域づくり事業	100
協働意識の醸成	活力ある地域づくり事業	17,900
広聴活動の充実	★広報広聴事業	9,200
多様な分野における参画・協働の促進	行政改革推進委員会事業	100
町民団体・NPO等の活動支援	地域づくり応援事業	900

7 持続可能な未来への基盤づくりプロジェクト

主要施策	重点事業名(実施計画)	事業費(千円)
多様な子育て支援施策の推進「総合的な子どもの居場所づくり」	★放課後児童クラブ等施設整備事業	18,200
健康づくり拠点施設の整備	健康づくり拠点施設整備事業	—
小野インターチェンジ周辺整備の推進	小野インターチェンジ周辺開発事業	7,100
小野高校空き校舎等の利活用の推進	★小野高等学校連携推進事業	500
行政改革の推進	行政改革推進事業	3,800
自治体DXの推進	デジタルトランスフォーメーション推進事業	3,500
	住民基本台帳事業(自治体システム標準化)	3,000
効果的・効率的な財政運営の推進	財政運営事業	2,200
新庁舎の建設	公共施設等整備検討事業	185,700
公共施設の総合的な管理の推進	町有財産維持管理事業	51,900

★…再掲事業

◆意見：集会所に集まって意見交換というやり方は、今の若い世代には不向きだと思う。スマートフォンなどを活用した、若い世代がまちづくりに対する意見を出しやすい仕組みづくりが必要ではないか。(浮金・男性)

◆回答：町では、令和3年度から町公式LINEアカウントを設け情報発信を行っています。若い世代の友だち登録が少ない状況です。今後は、町から一方向の情報発信だけではなく、双方向の情報発信ができる仕組みを構築予定ですので、これらも活用しながら幅広い世代からの意見を募る手法を構築してまいります。

◆意見：10年ほど前に町外から転入してきたが、この町で長く暮らすのであればより良い環境で生活したいと思い、初めてこのような場へ参加した。自分たちのような子育て世代同士が話し合える場や、町の事業についてもっと知る機会があれば、より良い意見を出し合うことができるのではないかと感じた。若い世代がもっとこのような場に参加できるようになれば、より良いまちづくりができると思う。(小野赤沼・女性)

◆回答：町が良い事業を行っていても情報発信が足りないと、町民の皆さんへうまく伝わらない面があると思います。さまざまな機会を捉えて情報発信を行うとともに、その方法も工夫してまいります。町の会議でも、ワークショップの手法を取り入れるなど、町民の皆さんから広く意見を聞いています。今後も、そのような場を設けてまいりますので、町民の皆様のご参加をお待ちしています。

◆意見：地域の実情や課題をよく分かっているのは行政区長だと思う。まずは行政区長同士が集まって、気軽に意見交換ができる場を設けるべきではないか。(谷津作・男性)

◆回答：ここ数年はコロナ禍の影響もあり、町としても行政区長会の研修を中止するなど、行政区長の皆さんが集まる機会が少なくなっていました。今後は行政区長の皆さんの意見交換の場を設け、地域の課題を話し合う機会を作ってまいります。

◆意見：地域ごとにさまざまな組織や団体があるが、人口が少なくなっている中でこれらの役員のなり手を確保することが難しくなっている。その一方で、役員になることや各種活動が面倒だからということも理由に行政区・隣組へ加入しない方もいる。(小戸神・男性)

◆回答：まずは、各地域でも人口減少についての話題を会合の場などで出していただき、町や地域の現状を認識していただくことが必要だと考えます。その中で、さまざまな組織や団体、行事などの運営について地域で話し合っただけであればと思います。また、行政区や隣組への加入については、特に災害時のことを考えると、公助が行き届くまでの自助・共助の確保の面からも必要なものだと考えています。



変化の時代の今、皆さんと共に新しい小野町を創っていくために

みんなで進める地域活動説明会を、2月7日から3月16日にかけて町内7会場で開催しました。この説明会は、人口減少や少子高齢化の影響により地域活動の担い手不足が進むなど、これまでどおりの地域活動が難しくなっている現状を踏まえ、町民の皆さんに町の現状や課題を知っていただき、今後の地域のあり方について意見交換を行うことを目的に開催され、延べ188人の方に参加いただきました。

町からは人口推移の状況や行政区別の人口推計結果、人口減少に伴う今後の課題、行政区の枠を超えた活動の取り組み事例などについて説明を行いました。参加された方からは地域や行政区に関する事、さらには町政全般に関する事など、多くのご意見をいただきました。今回、説明会の中でいただいたご意見の一部を次ページのとおり紹介いたします。



開催状況

月 日	場 所	対象行政区	参加者数
2月7日	B&G海洋センターアリーナ	飯豊上、飯豊中、飯豊下、小戸神	21人
2月14日	浮金集落センター	吉野辺、浮金	13人
2月20日	夏井多目的集会所	夏井、南田原井、湯沢	25人
2月22日	上羽出庭地区農村研修センター	塩庭一区、塩庭二区、上羽出庭、和名田	38人
3月8日	B&G海洋センターアリーナ	小野赤沼、葛蒲谷、雁股田、皮籠石、小野山神	20人
3月13日	多目的研修集会所	本町、横町、仲町、反町、大八	35人
3月16日	多目的研修集会所	荒町、中通、谷津作、平館	36人

◆意見：行政区の枠を超えた活動について説明があったが、具体的にどんなことができるのか示してほしい。具体的な活動項目を町が示した方が、町民も理解しやすいのではないか。(湯沢・男性)

◆回答：地域ごとに抱える課題や事情はさまざまであることから、町から具体的にどんな活動をするかをお示しすることは考えておりません。まずは、「自分の行政区ではどんな課題があるか」を地域の皆さんで考えていただき、その上で今後どのような活動が必要かを話し合っていたらと思います。なお、他の市町村の活動例については紹介してまいります。

◆意見：町民アンケートの結果で、「小野町に住みたい」と回答した中高生が3～4割しかいなかったが、その原因は何なのか。町としてはどのように考えているか。(上羽出庭・男性)

◆回答：考えられる要因としては、就職や進学の関係もしくは都市部へ出たいなどの理由が想定されます。「地元企業があるからそこに勤める」という考え方も無くなりつつあるように思われます。なお、若年層の定住意向については、小野町に限らず県内でも同様の結果がみられています。若い世代に小野町に住みたいと思っていただけるような、魅力あるまちづくりが必要と考えています。

◆意見：地域づくり協議会をいつまでに設立するといったタイムスケジュールはあるのか？(反町・男性)

◆回答：いつまでに設立するといったスケジュールは決めていません。まずは、人口減少の状況を町民の皆さんへお示しして、地域でどうしていくかを話し合う機会が増えることで、地域づくりの機運を高めていければと考えています。

◆意見：行政区長や行政区役員を決める際に、スムーズに決められている例がありますか？

◆参加者からの発言：私の行政区では、行政区長・組長のほか、各組に区議員を1名ずつ置き、普段から行政区の会議にも参加してもらいながら次年度に向けた話し合いも行っていきます。今後、定年延長などの影響もあり働く年齢層が伸びてきているので、次の世代への役職の引継ぎが難しくなってくると思われます。また、行政区内では子どもの数だけではなく、その親世代も少なくなっており、これまで行ってきた行事やイベントが実施できなくなっており、人口減少の影響を感じています。

おのまち 地域おこし協力隊活動記

東京での移住フェアに参加してきました

こんにちは。ようやく春の暖かさを少しずつ感じる季節になってきましたね。私が地域おこし協力隊に着任してすぐに新型コロナウイルスの感染拡大が始まり、県外どころか県内の移動も自由にはできない日々が続きました。皆さんも多くの苦労があったかと思えます。

私は昨年11月にようやく東京での移住フェアに参加することができました。「福島

くらし&しごとフェア」という年に1度の福島県最大規模の移住フェアです。実は私はこのフェアに相談者として参加して小野町と出会い、移住してきました。今度は逆の立場の相談員として参加することになるなんて：当時は夢にも思っていませんでした。

相談者の事情はさまざまです。本気ですぐに移住を考えている人、ぼんやりと移住を考えている人、イベントとして楽しみに来ている人、いろいろですがとても多くの来場者がありました。「以前、千本桜やリカちゃんキャッスルに観光に行きました」という人も何人かおられ、小野町の名前を見て「知ってる町だ!」と思って相談ブースに来てくださった人や「地域づくり

興味があり移住を検討している」という大学生もいました。小野町の関係人口を増やすことができれば、実際の移住者を増やすことへ繋がるきっかけになるとあらためて実感しました。

またほかの市町村の相談員の方とお話をさせていたいただき、その地方や自治体独自の悩みを解決するためのさまざまな取り組みも聞くことができ、大変参考になりました。

特に興味深かったのは、奥会津地方です。地域の仕事がないため、仕事がある時と無い時があります。「1人雇っても継続して仕事を与えることができない・年間雇用する給与は支払えない」という雇用する側の悩みは「十分な年収を得られない」という雇用される側の悩みに直結してしまいます。これを同時に解消するため、近隣市町村と連携して、例えば「春はA町の農家さん、夏はB町の観光業、冬はC町の〇〇会社」というように、町の枠を超えて人手が欲しい所へ配属される仕組みづくり



をしています。雇用される方も1年間の仕事が保障され、さらにさまざまな仕事を経験できることになりました。

もう一つおもしろいと思った取り組みは、只見町の「おしらせばん」という毎週発行される独自の広報新聞みたいなものにも求人情報を載せている取り組みです。ハローワークには載らない町の企業や法人、団体、商店などの求人情報をたくさん掲載してあります。おしらせばんには「みんなの伝言板」というコーナーもあり、役場の広報以外からのお知らせを知ることができ

ます。役場以外の行政・公益団体、民間団体が申請により情報を掲載することができ、週1回の発行のため、急ぎの情報も速やかに住民にお届けできます。この新聞情報が増えるだけで生活への選択肢が増

え、先行きが明るくなり、暮らしやすくなるだろうなと思えました。

移住者の不安はさまざまです。住居と仕事、医療、教育環境など、特に生活費をどのように稼ぐかの不安は大きいです。働きたい人と必要な時に人手が欲しい人とのマッチング事例として奥会津地方の取り組みは大変興味深いものでした。このような、移住者と地域の両方のニーズに合った取り組みを小野町でできるか、今後の地域おこし協力隊の活動にどうかすかなど、課題が見つかるいい経験になりました。

☎ つどってのおのまち
611-6731

今回の担当は…



阿井 由加子 隊員
担当/移住・定住支援
主な活動場所/
つどってのおのまち

紙面の都合上すべてのご意見は掲載していませんが、役場全体で業務の参考とさせていただきますのでご了承ください。

町では今後も地域のあり方に関する意見交換の場を設ける予定です。町民の皆さんの参加をお待ちしています。

説明会の資料は
こちらから



説明会での配布資料は町公式ウェブサイトに掲載していますので、ぜひご覧ください。